

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 6 月 26 日現在

機関番号：12611

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2022

課題番号：17K13298

研究課題名(和文)「からゆきさん」にみる移動・性・権力の諸相

研究課題名(英文) Exploring Aspects of Mobility, Sex, and Power in "Karayuki-san"

研究代表者

嶽本 新奈 (Takemoto, Niina)

お茶の水女子大学・ジェンダー研究所・特任講師

研究者番号：90795056

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,700,000円

研究成果の概要(和文)：COVID-19の流行により海外渡航が不可能となってしまったため、計画の変更を余儀なくされてしまった。そのうえで、本研究で得られた知見は以下のとおりである。

第一に、これまで「からゆきさん」といえば、海外の地で売春をしていた/させられていたことに注目が集まっていたが、身請けをされ、娼館を出た後の女性たちを辿ると、娼館を出て以降も女性たちが「奉公」のような形である種の契約関係の下にいた場合があることが確認できた。第二に、性売買の経験のみではなく、生殖やケアも含めた女性の再生産領域に注目することで、女性たちにとっての子ども不在がその女性の生涯的にどのような意味をもつのかについての洞察を得られた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義としては次の二点が挙げられる。第一に、尼港事件で犠牲になった「からゆきさん」の北東アジアにおけるネットワークを分析し、当時の回想録から彼女たちがロシア人、朝鮮人、中国人の人々と連れ添ったり、婚姻関係を結んでいたことを明らかにした。しかし尼港事件以降、帝国主義的なナショナリズム言説の高まりの中で彼女たちが多様な民族と関係を結んでいた側面が忘却されていったことを指摘した。第二に、これまであまり考察の対象とされなかった「からゆきさん」の「不妊」の問題について、「生む/生めない」ことによる女性の分断として問題化した森崎和江を媒介に、「からゆきさん」の再生産領域の問題として位置づけた。

研究成果の概要(英文)：The COVID-19 epidemic made it impossible to travel abroad, which forced me to revise the original research plans. The findings of this study, then, are as follows.

First, while much attention has been focused on the fact that "Karayuki-san" engaged (sometimes were made to engage) in prostitution in foreign lands, tracing the women after they were taken in by rich people out of the brothel revealed that in some cases, the women remained under some kind of contractual relationship in the form of "servitude" even after leaving the brothel. Second, by focusing not only on the experience of prostitution, but also on women's reproductive sphere, including biological reproduction and care, I have gained insights into how childlessness has a lifelong influence on women's lives.

研究分野：歴史学・ジェンダー史

キーワード：からゆきさん 移動 再生産労働 ジェンダー 性売買

## 1. 研究開始当初の背景

開国以降に渡航先で性売買を経営的営為としていた女性たちを「からゆきさん」総称するが、彼女たちをめぐるこれまでの先行研究は大きく二つに分類できる。一つは「抑圧された犠牲者」としての女性像を強調しつつ、買売春史のうちで、すなわち前近代から続く遊女から公娼、慰安婦へと至る連続性の中で、彼女たちを娼婦の一例として把握しようとするものである。「からゆきさん」の渡航契機は身売りの犠牲者という受動的要因によって説明され、女性たちは「慰安婦」の前段階に位置づけられてきた。もう一つは、売春を職業・労働とみなし、渡航を主体的に選択した労働者として「からゆきさん」を移民史のうちで考察する研究動向である。このアプローチでは、「からゆきさん」を出稼ぎ移民として定義し、統計的手法とより社会科学的な記述を重視する。

しかし、先行研究のこれら二つの潮流には、二点ほど問題があると考えられる。第一に、先行研究の中で、「受動的な性の抑圧 / 主体的な労働の選択」の二項対立を軸に、「からゆきさん」像が相容れない二極化したものになっている。第二に、「からゆきさん」は多様な変数（出身地、渡航手段、出稼ぎ先、帰国経緯等）を確かにもつ一方で、「からゆきさん」と括られる一連の女性たちの出現は、その移動を促進・維持させていた同時代の社会的条件の変化なしには起こり得なかったはずだが、彼女たちの発生や継続を根本的に条件づけていたマクロな政治的、経済的構造に関して基礎的な共通認識が欠如している点である。以上の問題意識と欠如を埋めるべく本研究を開始した。

## 2. 研究の目的

本研究は、日本の開国期から戦間期まで続く「からゆきさん」の移動現象を再生産労働概念によって捉え直すことで、次の二点を明らかにすることを目的とした。

第一に、従来の研究が渡航契機を女性の主体性の有無に還元してきたのに対し、植民地における再生産労働の需要と供給の観点から検証を行うことで、「からゆき」の継続的移動現象を構造的に明らかにする。

第二に、従来娼館での売春に限定されてきた「からゆき」の「経験」と「労働」についてその定義と対象を拡大し、移動先で女性が現地人、植民者、在外日本人とのいかなる社会的関係・権力関係の下にあったのか、その諸相を明らかにする。

## 3. 研究の方法

元「からゆきさん」が遺したインタビューの音声为主要な資料として、個人の経験と歴史的かつ社会的なマクロな構造を重ね合わせるために、シンガポール、マレーシア、英国および国内での資料調査を行う予定だったが、COVID-19の流行により期間中の海外渡航どころか国内の移動も難しくなり当初の研究計画の変更を余儀なくされた。

変更後は、音声資料の分析と関連調査、再生産領域、再生産労働の理論的枠組みの精査、「からゆきさん」の文献、資料の収集、分析の以上三点に傾注した

## 4. 研究成果

本研究では、身請け後、つまり娼館を出て以降の女性たちの経験をどのように跡付けるかについて再生産労働概念を用いて考察することを目的としたが、女性たちが移動先の土地で一人で生計を立てることは難しかったため、時として娼館を出た後も「奉公関係」のような契約を結んでいる場合があった。その点を踏まえたくて本研究で得られた成果は、主として次の二点である。

第一に、尼港事件以前にシベリア地域にいた「からゆきさん」の北東アジアにおけるネットワークを分析し、当時の回想録から彼女たちがロシア人、朝鮮人、中国人の人々と連れ添ったり、婚姻関係を結んでいたことを明らかにした。しかし尼港事件以降、帝国主義的なナショナリズム言説の高まりの中で彼女たちが多様な民族と関係を結んでいた側面は忘却されていったことを指摘した。

第二に、これまであまり考察の対象とされなかった「からゆきさん」の「不妊」の問題について、「生む / 生めない」ことによる女性の分断として問題化した森崎和江を媒介に、「からゆきさん」の再生産領域の問題として位置づけた。子どもの不在は晩年の女性たちのケアや看取り、葬送の不在として表れてくることを指摘した。

上記二点と既述した「からゆきさん」の娼館後の経験を考慮するならば、女性たちの経済的営

為の対象と意味を拡大し、性売買をしていた一時期のみでなく女性たちの生涯を考察対象にする必要があるといえるだろう。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 嶽本新奈	4. 巻 -
2. 論文標題 「シベリア地域の「からゆきさん」と現地的人的繋がりをー尼港事件「殉難者」再考」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 釜慶大学人文韓国プラス（HK+）事業団『研究叢書』	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 嶽本新奈	4. 巻 999
2. 論文標題 「書評・吉見義明『買春する帝国ー日本軍「慰安婦」問題の基底』」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『歴史学研究』	6. 最初と最後の頁 39-42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 嶽本新奈	4. 巻 第22号
2. 論文標題 「書評 柳原惠著『化外 のフェミニズム 岩手・麗ら舎読書会の おなご たち』」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『ジェンダー研究』	6. 最初と最後の頁 238-240
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 嶽本新奈	4. 巻 第三号
2. 論文標題 研究余話「からゆきさん」研究と『新聞に見る福岡県女性のあゆみ』	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 福岡 女たちの戦後	6. 最初と最後の頁 92-94
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 嶽本新奈	4. 巻 19
2. 論文標題 「からゆきさん」にみる性・移動・権力の諸相	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 立教大学ジェンダーフォーラム年報	6. 最初と最後の頁 91-100
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 嶽本新奈	4. 巻 815
2. 論文標題 「異・外国人 との子ども」研究の整理と「からゆきさん」事例	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 歴史評論	6. 最初と最後の頁 5-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 嶽本新奈	4. 巻 50
2. 論文標題 「『からゆきさん』再読――「生まない女」に着目して」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 332-341
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 嶽本新奈	4. 巻 7
2. 論文標題 「優生思想と「純潔／純血」イデオロギー：海外日本人娼婦をめぐる廃娼運動の言説」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 シモーヌ	6. 最初と最後の頁 50-56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計17件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 4件）

1. 発表者名 嶽本新奈
2. 発表標題 「シベリア地域の「からゆきさん」 尼港事件「殉難者」再考」
3. 学会等名 第4回東北アジア海域と人文ネットワーク国際学術大会・オンライン開催（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 嶽本新奈
2. 発表標題 「シンガポール・マレーシア半島における日本人女性の経験ーある「からゆきさん」の生涯をてがかりに」
3. 学会等名 ジェンダー史学会会員企画シンポジウム
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 嶽本新奈
2. 発表標題 「北方への『からゆきさん』の状況と整理 天草の『尼港事変殉難者碑』を手がかりに」
3. 学会等名 朝鮮・極東ロシア・樺太の『からゆきさん』たち 公娼制の内と外」シンポジウム、メディア・ツーリズム研究センター共同プロジェクト主催、北海道大学
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 嶽本新奈
2. 発表標題 「近代日本の女性の移動と再生産 『からゆきさん』の生涯をめぐって」
3. 学会等名 IGSセミナー、お茶の水女子大学ジェンダー研究所（IGS）主催、お茶の水女子大学
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 嶽本新奈
2. 発表標題 “ Examining Karayuki-san in Light of Migration and “ (Non-) Belonging ”
3. 学会等名 International Association For Feminist Economics Annual Conference, Glasgow Caledonian University, Glasgow, Scotland. (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 嶽本新奈
2. 発表標題 「森崎和江『からゆきさん』再読 「生めない女」に着目して」
3. 学会等名 森崎和江研究会、「第二回森崎和江『からゆきさん』を読む」、天草四季崎館ホテル
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 嶽本新奈
2. 発表標題 「からゆきさん」にとっての「越境」とはなにかー「連帯」を阻むもの
3. 学会等名 WS「森崎和江の越境する連帯の思想ー『からゆきさん』の近代と現代」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 嶽本新奈
2. 発表標題 北方への「からゆきさん」の状況と整理ー天草の「尼港事变殉難者碑」を手がかりに
3. 学会等名 シンポジウム「朝鮮・極東ロシア・樺太の「からゆきさん」たちー公娼制の内と外」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 嶽本新奈
2. 発表標題 近代日本の女性の移動と再生産ー「からゆきさん」の生涯をめぐる
3. 学会等名 お茶の水女子大学ジェンダー研究所主催IGSセミナー
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 嶽本新奈
2. 発表標題 「からゆきさん」にとっての移動の問題ー聞き書きからみえてくるもの
3. 学会等名 国際シンポジウム・移住と女性ー移住女性たちが語る国家・地域・世界ー（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 嶽本新奈
2. 発表標題 ' I Mean Women ' s Labor ' : The Issue of Being Childless in MORISAKI Kazue ' s Karayuki-san
3. 学会等名 Selective Tradition in the Pacific: A Conference on Class, Writing, and Culture ( 国際学会 )
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 嶽本新奈
2. 発表標題 「からゆきさん」にみる性・移動・権力の諸相
3. 学会等名 第71回 立教大学ジェンダーセッション
4. 発表年 2017年



1. 発表者名 嶽本新奈
2. 発表標題 「森崎和江についての『エロス』」
3. 学会等名 森崎和江研究会「第5回・森崎和江と『闘いとエロス』を読み継ぐ」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 嶽本新奈
2. 発表標題 ある「からゆきさん」の語りからみる女性の経験
3. 学会等名 第19回 ジェンダー史学会大会「グローバル・ヒストリーとジェンダー」大会シンポジウム
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 嶽本新奈
2. 発表標題 「「棄民」を記録するー今村昌平・ドキュメンタリー映画『からゆきさん』（1973）再考」
3. 学会等名 お茶の水女子大学ジェンダー研究所・IGSセミナー
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------